

知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン部会 ロゴデザイン検討

ロゴデザイン検討過程

平成 24 年 11 月 27 日 第 1 回企画部会

- ・ ヒグマへのエサやりをなくすアイデアとして共通ステッカーの活用アイデアが出された。
- ・ エサやり禁止のためのメッセージとして次の“ことば”がアイデアとして出された。
 - 「エサをあげてはいけない」(直接的なメッセージ)
 - 「エサをやらないでください」(来訪者へのお願い)
 - 「ゴミがクマを殺す」, 「人にクマは殺される」(インパクトのあるメッセージ)
 - 「私はクマを殺したくない」, 「セーブ～」(地域としてヒグマを守りたいメッセージ)
 - 「エサはもらいません」(ヒグマ側からのメッセージ)
 - 「クマにエサをやらないでありがとうございました」(肯定のメッセージ)
 - 「クマにエサをやったらだめだべさ～(べや～)」(地域性を感じるメッセージ)
- ・ “ことば”を選ぶ際の視点についての意見が出された。
 - すぐ見てわかるメッセージ
 - インパクトのあるストレートなメッセージ
 - 前向きな絵と厳しいメッセージ
 - ポジティブなシーンが想像できるメッセージ
 - 場所・時間に応じた使い分け
 - (ロゴだけの場合、ポスターの場合、しっかり読む時間のある場合)

平成 25 年 11 月 11 日 ステッカーデザイン検討ミーティング

- ・ 知床斜里町観光協会、知床ガイド協議会、知床財団、ウトロ自然保護官事務所より提出されたアイデアを元に、ロゴデザイン、“ことば”の検討が行われた。(アイデアは次ページ以降の資料参照)
- ・ ロゴデザインについては、次の方向性が確認された
 - 「禁止行為がわかるシンプルなデザイン」→「シルエットデザイン」「斜線」
 - 「まずはヒグマだけでデザインし、その後キツネなどへの派生を検討」
- ・ マグネットステッカー等で活用するロゴで使う“ことば”はシンプルな物とすることとし、案として次の言葉が出された。
 - 「エサやるな」
 - 「エサだめ」, 「エサやるとダメ」
 - 「エサやらないで」, 「エサあげないで」
 - 「ストップエサやり」

以上の議論を踏まえ資料 2 のロゴ案を制作した。

知床ヒグマエサやり禁止キャンペーン部会 ステッカーデザイン検討ミーティング

知床斜里町観光協会、知床ガイド協議会、ウトロ自然保護官事務所からのロゴアイデア

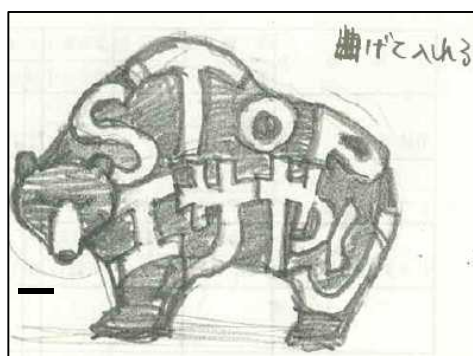
- ・私は餌をやりません（宣言型）



- ・餌はもらいません、いりません（ヒグマに語らせる型）



- ・STOP エサやり（シンプル型）



1. エサやりステッカーの必要な要件

- 1) 見てすぐテーマがわかる。(外国人にも)
- 2) メッセージと図案がセットとなるデザイン
- 3) 拡大・縮小しても利用しやすい。
- 4) カラー・モノクロの両方で利用しやすい。
- 5) ステッカー、看板、印刷物、グッズ等、多様な用途に利用できる。
- 6) 今後、シリーズのような形で展開できればなお良い。

2. 海外における事例

1) 禁止主張系



例 1



例 2

2) ストーリー系



例 3



例 4

3) イラスト系



例 5



例 6

3. 佐藤案（資料1）

デザイン、綺麗さを重視。ほしいと思えるようなプラスのデザインを目指した。

図案でエサやり禁止を訴える。

エサやり、ゴミ捨てはヒグマにとって毒であり、それらの行為をする人は死神である。

エサやり禁止をシンプルに伝える。

ヒグマの本来の生活環境と、エサやり・ゴミ捨てなどの悪い環境を表現。



知床ガイド協議会 御中

餌やり禁止キャンペーンステッカー 地元の方のイラスト使用の企画案

昨年地元の子供達に「野生動物との関わりかた」をテーマにしたマンガ制作のワークショップを行いました。

そこで地元の子供達が、他の地域とは異なる野生の生き物への考えを持っていることを知りました。

知床は自然も素晴らしいですが、そこで生活する方達の知床ならではの感じ方も大事な事だと教えていただきました。

現状では知床に訪れる方と地元の方は触れる機会は多くはありません。

その事で起こる問題もありますし、逆に交流する事でお互いに良い影響を与え合う事も可能です。

「餌やり禁止キャンペーンステッカー」の制作のご連絡をいただき、この企画からお客様と地元の方の交流する場を作る事も可能ではないかと、失礼ながら提案をさせていただきたく企画案を作成いたしました。本来ならば会議に参加するのが筋でしょうが、知床を離れている為このような形での参加になります。

ご迷惑をかける点、大変申し訳ございません。

至らない点も多い事と思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

2013年1月10日

岡田 裕子

企画主旨

知床での野生生物への餌やりや、接近等による事故が深刻化してきました。対応策として訪れるお客様への注意喚起の他に、地元の方にも参加していただき、地域全体の問題とする事も効果をあげる一つだと考えます。その為に、訪れるお客様への注意喚起のステッカー作成に関して、地元の方のイラスト使用のご検討をお願いいたします。

1. ステッカーに地元の方のイラストを使用する事の効果

○地元の子供に知床での餌やりで起きた問題を知っているかと訪ねると意外にも知らない子供が多い。
地元の方の作品を使用する事で、地元の問題に関心を持つ機会を作る。

○知床に訪れるお客様は自然に触れる機会は多いが、知床の歴史的・文化的な側面に触れる機会は少ない。
その影響で野生動物への餌やりや接近が、地元の方に影響を及ぼす事までを考えられないという事例を作っているのではないかと。
ステッカーに地元の方の作品を使用する事で、地元の交流も提供できると考える。
地元の交流を通して通り過ぎで終わらない、持続的な観光を考える場の提供を行う。

2. 使用イメージ



*ウトロの小学生に制作してもらったイラストを使用しています。